

外観調査の結果

各調査区における空き家の現状（空き家戸数、空き家率、世帯数）は、次のとおりである。調査区全体の空き家戸数は417で、平均空き家率は4.57%であった。

地区区分	調査区	調査年度	属する区	総世帯数	空き家戸数	空き家率
A地区 (S45年 DID地区)	A-1	H25	東区	200	6	3.00%
	A-2	H24	北区	287	4	1.39%
	A-3	H24	中央区	880	60	6.82%
	A-4	H24	中央区	136	21	15.44%
	A-5	H24	秋葉区	59	1	1.69%
	A-6	H24	秋葉区	412	59	14.32%
	A-7	H24	南区	150	14	9.33%
	A-8	H24	西区	96	3	3.13%
	A-9	H24	西区	100	3	3.00%
	計			2,320	171	7.37%
B地区 (S60年 DID地区)	B-1	H25	北区	177	1	0.56%
	B-2	H25	中央区	246	2	0.81%
	B-3	H25	江南区	289	15	5.19%
	B-4	H25	秋葉区	220	8	3.64%
	B-5	H25	南区	182	11	6.04%
	B-6	H25	西区	192	10	5.21%
	B-7	H25	西蒲区	233	8	3.43%
	B-8	H24	西区	210	9	4.29%
	計			1,749	64	3.66%
C地区 (H17年 DID地区)	C-1	H25	北区	385	1	0.26%
	C-2	H25	東区	405	7	1.73%
	C-3	H25	中央区	340	9	2.65%
	C-4	H25	江南区	299	0	0.00%
	C-5	H25	西区	225	1	0.44%
	C-6	H24	東区	426	11	2.58%
	計			2,080	29	1.39%
D地区 (その他地区)	D-1	H25	北区	587	7	1.19%
	D-2	H25	江南区	198	9	4.55%
	D-3	H25	秋葉区	265	3	1.13%
	D-4	H25	西区	240	3	1.25%
	D-5	H25	南区	215	1	0.47%
	D-6	H25	西蒲区	122	3	2.46%
	計			1,627	26	1.60%
E地区 (田園集落地区)	E-1	H24	北区	327	9	2.75%
	E-2	H24	南区	80	2	2.50%
	E-3	H24	南区	441	43	9.75%
	E-4	H24	南区	76	6	7.89%
	E-5	H24	西区	103	1	0.97%
	E-6	H24	西蒲区	324	66	20.37%
	計			1,351	127	9.40%
合 計				9,127	417	4.57%

※空き家率＝空き家戸数÷総世帯数×100

1. 全体集計

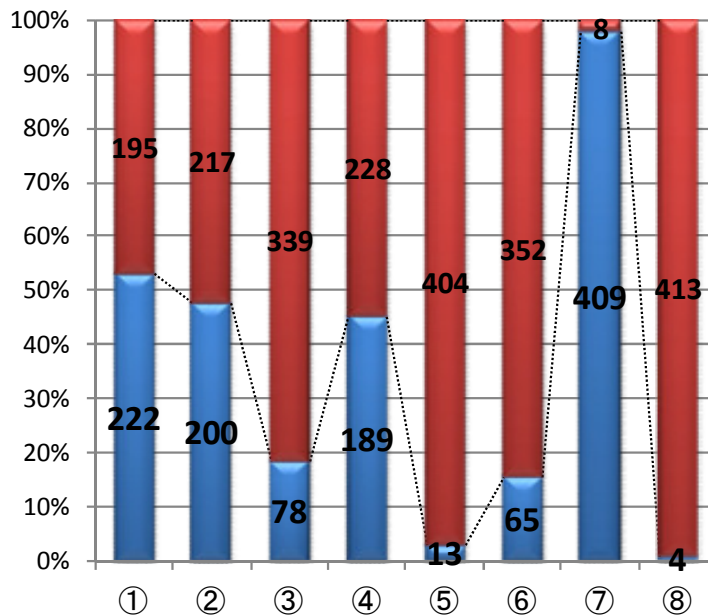
(1) 空き家の判定基準

・外観調査における「空き家」の判定は、そのほとんどが「近隣・自治会からの情報」に基づいている。

① 電気メーターが動いていない
② 表札がない
③ ポストが封鎖されている又はチラシが滞留している
④ 生活感・使用感がない（カーテンがない，備品がない等）
⑤ 「入居者募集」や「売物件」などの看板がある
⑥ 外観が廃屋風
⑦ 近隣・自治会等からの情報
⑧ その他（ ）

n = 417

	戸数	割合	空き家全戸 に対する 割合
①	222	18.8%	53.2%
②	200	16.9%	48.0%
③	78	6.6%	18.7%
④	189	16.0%	45.3%
⑤	13	1.1%	3.1%
⑥	65	5.5%	15.6%
⑦	409	34.7%	98.1%
⑧	4	0.3%	1.0%
合計	1180	100.0%	

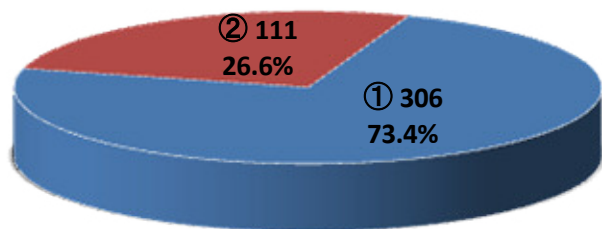


(2) 空き家の所有者情報の自治会での把握状況

・空き家の所有者情報については、全体の約 3/4 を自治会で把握している。

① 所有者（管理者）又はその関係者の情報を自治会等で把握している →把握している情報（□氏名（会社名） □住所 □電話番号 □その他）
② 所有者（管理者）又はその関係者を自治会等では把握していない

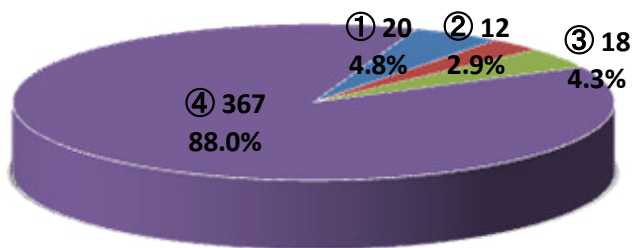
	戸数	割合
①	306	73.4%
氏名	279	91.2%
住所	159	52.0%
電話	143	46.7%
その他	22	7.2%
②	111	26.6%
合計	417	100.0%



(3) 空き家の使われ方

・使われ方が明確でない空き家が、全体の 9 割近くを占める。

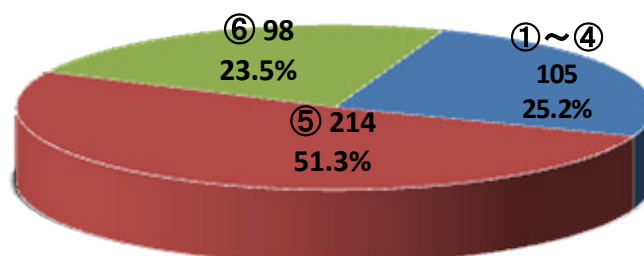
	戸数	割合
①賃貸用の空き家	20	4.8%
②売却用の空き家	12	2.9%
③別荘や週末利用などの空き家	18	4.3%
④その他の空き家	367	88.0%
合計	417	100.0%



(4) 空き家になっている概ねの期間

・ 空き家になってからの期間は、「3年以上」が全体の約半分（51.3%）を占める。

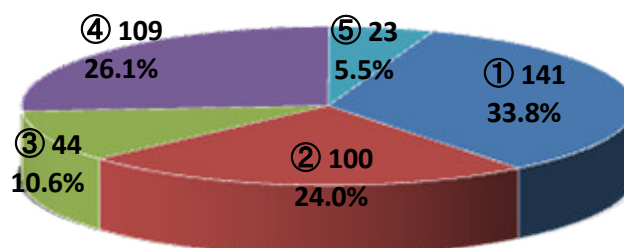
	戸数	割合
①3カ月未満	6	1.4%
②3カ月から半年未満	11	2.6%
③半年から1年未満	26	6.2%
④1年から3年未満	62	14.9%
⑤3年以上	214	51.3%
⑥不明	98	23.5%
合 計	417	100.0%



(5) 空き家になった経緯

・ 空き家になった経緯で最も多かったのは「居住者が引っ越したため」で全体の1/3を占める。
 ・ 次いで「居住者等が死亡したため」が全体の1/4を占める。

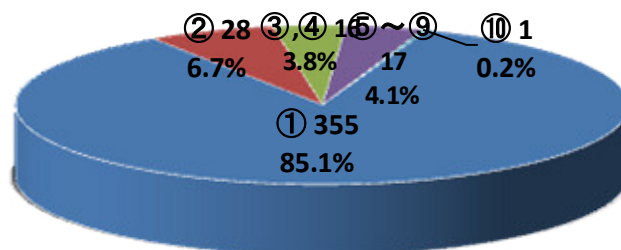
	戸数	割合
①居住者が引っ越したため	141	33.6%
②居住者が死亡したため	100	24.0%
③居住者が転勤・入院等で不在のため	44	10.6%
④不明	109	26.1%
⑤その他	23	5.5%
合 計	417	100.0%



(6) 空き家のもともとの用途（空き家となる以前の使われ方）

・空き家になる以前の使われ方で最も多いのは「一戸建て専用住宅」であり、全体の85.1%を占める。

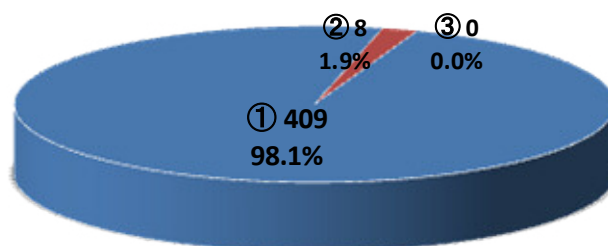
	戸数	割合
①一戸建て専用住宅	355	85.1%
②一戸建て併用住宅	28	6.7%
③長屋	14	3.4%
④アパート、マンション	2	0.5%
⑤店舗	8	1.9%
⑥事務所	1	0.2%
⑦工場、作業場	3	0.7%
⑧倉庫、車庫、納屋	4	1.0%
⑨その他	1	0.2%
⑩不明	1	0.2%
合 計	417	100.0%



(7) 空き家の構造

・空き家の構造は、そのほとんど（98.1%）が木造である。

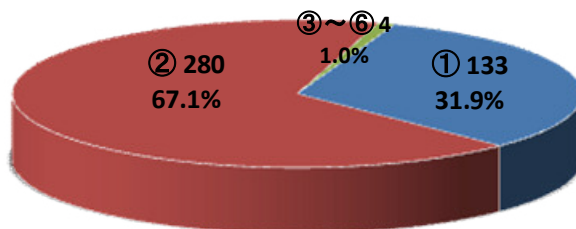
	戸数	割合
①木造	409	98.1%
②非木造（RC造、S造等）	8	1.9%
③不明	0	0.0%
合 計	417	100.0%



(8) 空き家の地上階数

・空き家の地上階数については、「二階建て」が全体の2/3、「一階建て」が1/3を占める。

	戸数	割合
① 一階建て	133	31.9%
② 二階建て	280	67.1%
③ 三階建て	4	1.0%
④ 四階建て	0	0.0%
⑤ 五階建て	0	0.0%
⑥ 六階建て以上	0	0.0%
	417	100.0%

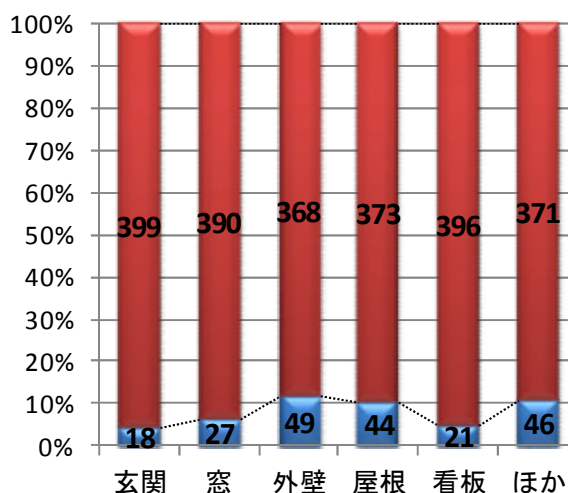


(9) 空き家の劣化・破損している部位の状況【複数回答】

・空き家の劣化・破損している部位としては、「外壁材」が最も多く、次いで「屋根・瓦」が多い。

- ① 玄関ドア・鍵が破損し、人が出入りできる状況である
- ② 窓のカギが破損又は窓ガラスが割れており、人が出入りできる状況である
- ③ 外壁材が破損・劣化しており、落下・飛散の恐れがある
- ④ 屋根・瓦が破損・劣化しており、落下・飛散の恐れがある
- ⑤ 看板・設備機器等の付属物が破損・劣化しており、落下・飛散の恐れがある
- ⑥ その他（ ）

	戸数	割合	n=417 空き家全戸 に対する 割合
①	18	8.8%	4.3%
②	27	13.2%	6.5%
③	49	23.9%	11.8%
④	44	21.5%	10.6%
⑤	21	10.2%	5.0%
⑥	46	22.4%	11.0%
合計	205	100.0%	



その他の内容(46件)

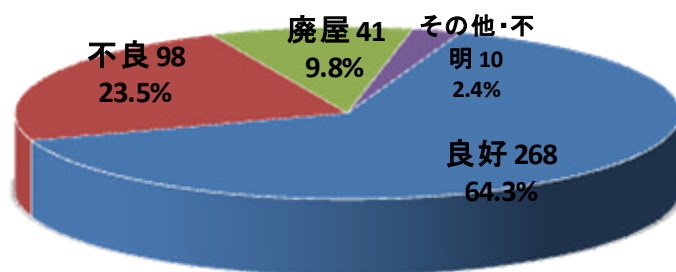
- ・全体に劣化・老朽化が進んでいる(24件)
- ・雑草・草木の繁茂が著しい(6件)
- ・外壁の劣化(錆、剥離等)が進んでいる(4件)
- ・全体に劣化と雑草繁茂が進行している(3件)
- ・ガラス(窓、物置)が割れている(2件)
- ・生活するには手直しが必要(2件)
- ・雨樋が落ちている(1件)
- ・倒壊の恐れがある(1件)
- ・アンテナが曲がっている(1件)
- ・その他(2件)

(10) 空き家建物全体の劣化・破損の状況

・空き家全体が良好な状態で維持されているものが 6 割以上を占め、廃屋状態の空き家は全体の 1 割程度である。

- ① 良好（リフォームなし又は小規模なリフォームで十分使用可能）
- ② 不良（使用するには大規模なリフォームが必要）
- ③ 廃屋（危険な状態であり、安全のために除却等が望まれるもの）
- ④ その他（ ）
- ⑤ 不明

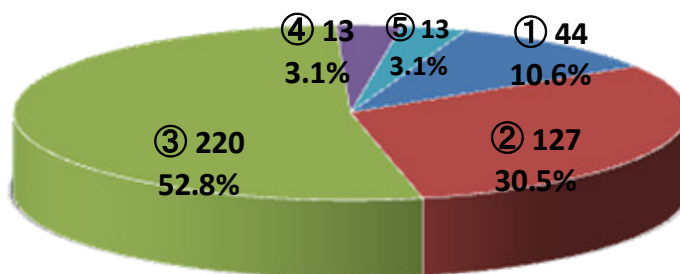
	戸数	割合
①	268	64.3%
②	98	23.5%
③	41	9.8%
④	6	1.4%
⑤	4	1.0%
合計	417	100.0%



(11) 空き家の敷地が接している道路の概ねの幅員

・幅員「4m以上」の道路に接している場合が最も多く、全体の約半分を占める。
 ・次いで幅員「2～4m」が約 1/3 を占め、「2m未満」を含めると、4m未満（①+②）の道路は 4 割を占める。

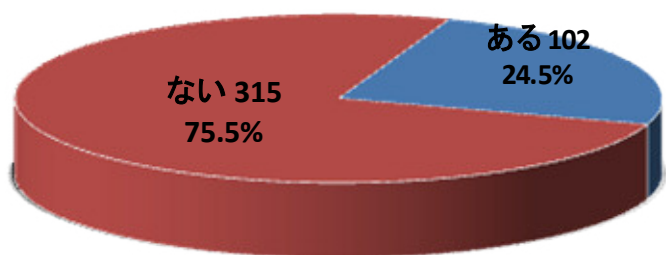
	戸数	割合
①2m未満	44	10.6%
②2～4m未満	127	30.5%
③4m以上	220	52.8%
④道路に接していない	13	3.1%
⑤不明	13	3.1%
合計	417	100.0%



(12) 付属屋（母屋とは別棟の倉庫や車庫など）の有無

・付属屋がある空き家が、全体の 1/4 を占める。

	戸数	割合
①敷地内に付属屋がある	102	24.5%
②敷地内に付属屋はない	315	75.5%
合計	417	100.0%

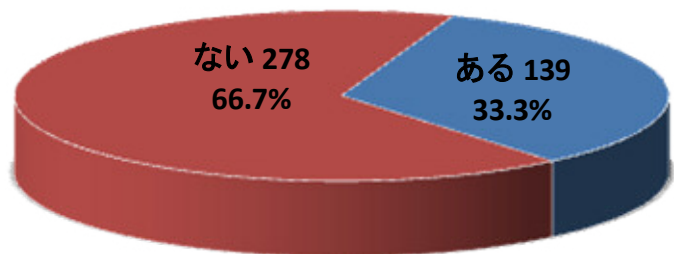


(13) 工作物（門・塀などの建物以外のもの）の有無

・門や塀などの工作物がある空き家は、全体の 1/3 を占め、この内 9 割の空き家に塀が、また約 4 割の空き家に門がある。
 ・工作物の内、約 1 割が「不良」や「危険」な状態にある。

- ① 敷地内に門・塀などの建物以外の工作物がある
 →種類（門・門扉 塀・フェンス その他（ ））
 →状況（良好 不良 危険 その他（ ） 不明）
- ② 敷地内に門・塀などの建物以外の工作物はない

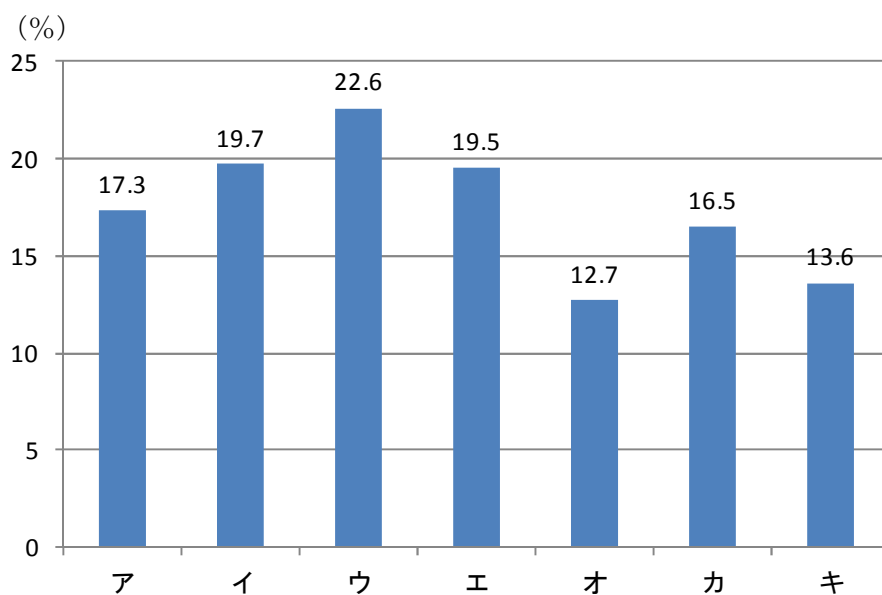
	戸数	割合
①	139	33.3%
門	53	38.1%
塀	125	89.9%
その他	4	2.9%
良好	116	83.5%
不良	11	7.9%
危険	4	2.9%
その他	0	0.0%
不明	8	5.8%
②	278	66.7%
合計	417	100.0%



(14) 空き家での問題点

①問題点の概要

- ・空き家に対して感じている問題として、最も多かったのが「雑草・樹木・枝などの繁茂」(22.6%)となっている。
- ・次いで「建物の劣化・破損による、建材・部材などの落下・飛散」(19.7%)と「ねずみ、野良猫などの住処やハエ、蚊などの発生」(19.5%)が多い。



- | | |
|---|---------------------------|
| ア | 建物の老朽化による、道路や隣地などへの倒壊 |
| イ | 建物の劣化・破損による、建材・部材などの落下・飛散 |
| ウ | 雑草・樹木・枝などの繁茂 |
| エ | ねずみ、野良猫などの住処やハエ、蚊などの発生 |
| オ | ゴミの不法投棄 |
| カ | 不審火や放火 |
| キ | 不審者などの住みつきや出入り |

空き家に対して感じている問題内容別の割合

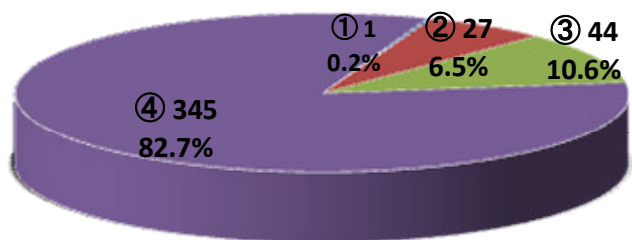
②問題内容別に見た問題の程度

ア 建物の老朽化による、道路や敷地などへの倒壊

・「建物の老朽化による、道路や隣地などへの倒壊」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上（①+②）は6.7%を占める。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある（ 年 月頃）
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	1	0.2%
②	27	6.5%
③	44	10.6%
④	345	82.7%
合計	417	100.0%

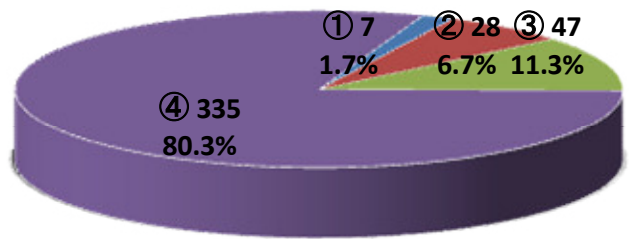


イ 建物の劣化・破損による、建材・部材などの落下・飛散

・「建物の劣化・破損による建材・部材などの落下・飛散」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上（①+②）は8.4%を占める。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある（ 年 月頃）
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	7	1.7%
②	28	6.7%
③	47	11.3%
④	335	80.3%
合計	417	100.0%

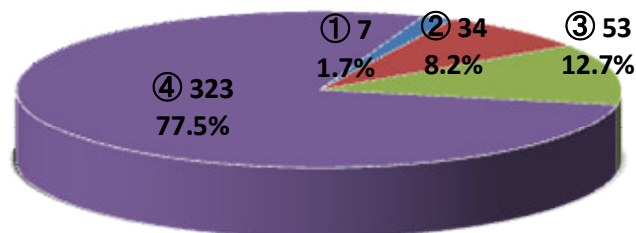


ウ 雑草・樹木・枝などの繁茂

・「雑草・樹木・枝などの繁茂」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上（①+②）は9.9%を占め、他の問題内容と比べ最も高い。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある（ 年 月頃）
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	7	1.7%
②	34	8.2%
③	53	12.7%
④	323	77.5%
合計	417	100.0%

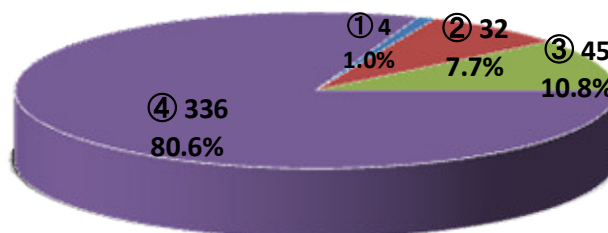


エ ねずみ、野良猫などの住処やハエ、蚊などの発生

・「ねずみ、野良猫などの住処やハエ、蚊などの発生」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上（①+②）は8.7%を占める。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある（ 年 月頃）
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	4	1.0%
②	32	7.7%
③	45	10.8%
④	336	80.6%
合計	417	100.0%

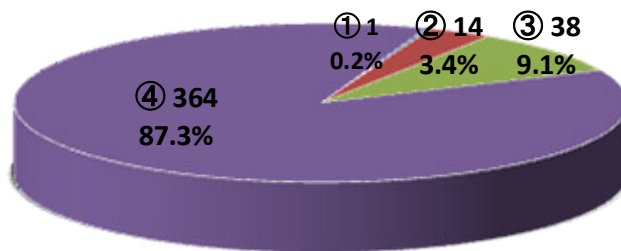


オ ごみの不法投棄

・「ごみの不法投棄」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上(①+②)は、3.6%と他の問題内容に比べて低い。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある(年 月頃)
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	1	0.2%
②	14	3.4%
③	38	9.1%
④	364	87.3%
合計	417	100.0%

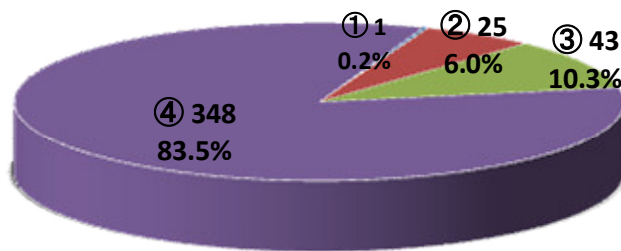


カ 不審火や放火

・「不審火や放火」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上(①+②)は、6.2%を占める。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある(年 月頃)
- ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
- ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
- ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	1	0.2%
②	25	6.0%
③	43	10.3%
④	348	83.5%
合計	417	100.0%

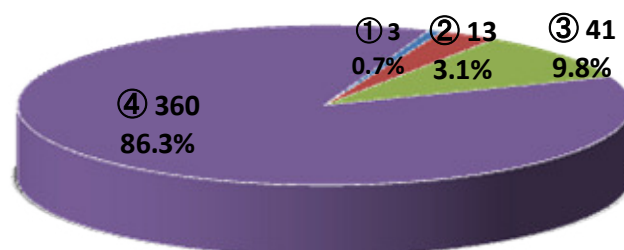


キ 不審者などの住みつきや出入り

・「不審者などの住みつきや出入り」に関して、事件や事故がいつ発生してもおかしくない状態以上（①+②）は、3.8%を占める。

- ① 過去に具体的な事件・事故が起きたことがある（ 年 月頃）
 ② 具体的な事件・事故は起きていないが、いつ発生してもおかしくない状態と感じている
 ③ 具体的な事件・事故はまだ発生しそうな状態ではないが、将来的な発生を心配している
 ④ 特に問題とは感じていない

	戸数	割合
①	3	0.7%
②	13	3.1%
③	41	9.8%
④	360	86.3%
合計	417	100.0%



2. 地区区分別集計

新潟市のまちの成り立ちによる以下の地区区分ごとに集計する。

○A地区 (S45年 DID 地区)

昭和 45 年時点の DID 地区。高度経済成長期で、都市計画法に開発許可制度が導入 (S 43) 以前に都市部に人口が集中した時期に開発された地区。

○B地区 (S60年 DID 地区)

DID 地区で昭和 46 年から昭和 60 年に拡大した区域。都市計画法の開発許可制度の制定後に開発され、概ね開発後 30 年以上 (住宅取得者が高齢期) 経過した地区。

○C地区 (H17年 DID 地区)

DID 地区で昭和 61 年から平成 17 年に拡大した区域。開発後 30 年未満 (住宅取得者は現役世代) の地区。

○D地区 (その他地区)

市街化区域で DID 地区に該当しない地区。

○E地区 (田園集落地区)

田園・集落部にある集落地区。「新潟市開発行為等の許可の基準に関する条例」による「既存集落区域」(案)として位置づけられる区域を設定。

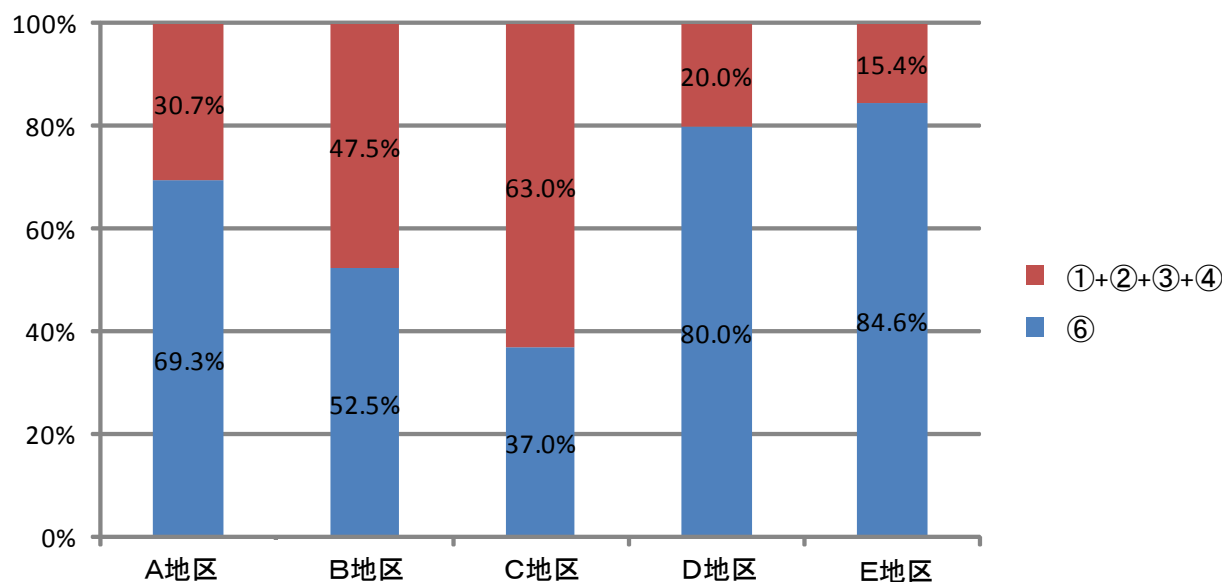
※DID とは、日本の国勢調査において設定される統計上の人口集中地区のことであり、英語の *Densely inhabited District* を略して「DID」と呼ばれる。具体的には市区町村の区域内で人口密度が 4,000 人/km² 以上の基本単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区に設定される。

(1) 空き家期間

- 空き家になってからの期間を、「3年以上」と「3年未満」(①+②+③+④)に区分して比較すると、「3年以上」の古い空き家が最も多いのはE地区となっている。
- A地区、B地区、C地区を見ると、開発年代が古いほど「3年以上」が多い傾向にある。

	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①3カ月未満	3	2.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	2	3.1%
②3カ月から半年未満	8	5.2%	1	1.7%	1	3.7%	0	0.0%	1	1.5%
③半年から1年未満	12	7.8%	10	16.9%	3	11.1%	0	0.0%	1	1.5%
④1年から3年未満	24	15.7%	17	28.8%	12	44.4%	3	20.0%	6	9.2%
⑤3年以上	106	69.3%	31	52.5%	10	37.0%	12	80.0%	55	84.6%
⑥不明	18		5		2		11		62	
合計	171		64		29		26		127	
(不明を除く合計)	153		59		27		15		65	

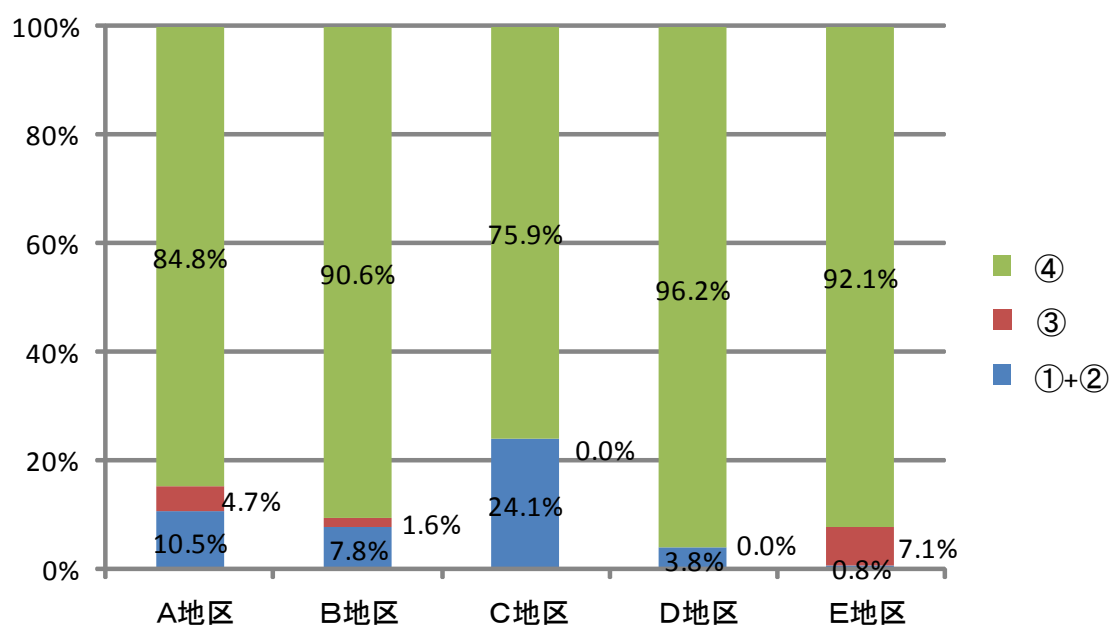
※割合は、不明を除く合計に対する割合である。



(2) 空き家の使われ方

・空き家のうち、市場に出ている賃貸用と売却用の空き家（①+②）はC地区が最も多い（24.1%）。

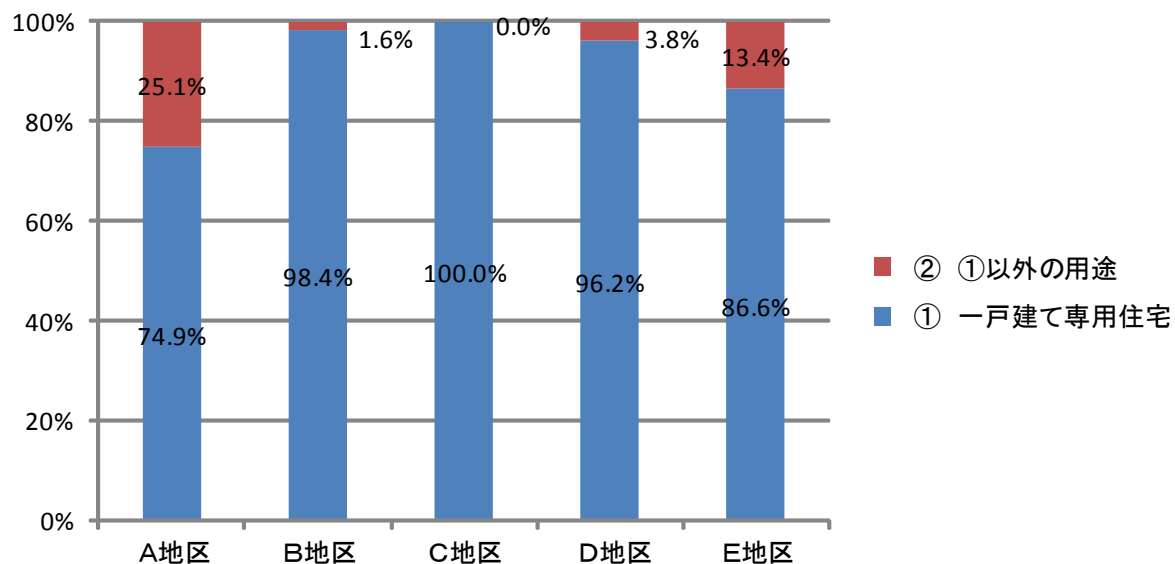
	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①賃貸用の空き家	13	7.6%	3	4.7%	3	10.3%	0	0.0%	1	0.8%
②売却用の空き家	5	2.9%	2	3.1%	4	13.8%	1	3.8%	0	0.0%
③別荘や週末利用などの空き家	8	4.7%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	9	7.1%
④その他の空き家	145	84.8%	58	90.6%	22	75.9%	25	96.2%	117	92.1%
合計	171		64		29		26		127	



(3) 用途

・ 空き家の用途については、全体的には、「一戸建て専用住宅」が多くを占めるが、A地区やE地区では、それ以外の用途の空き家が他地区に比較して見られる。

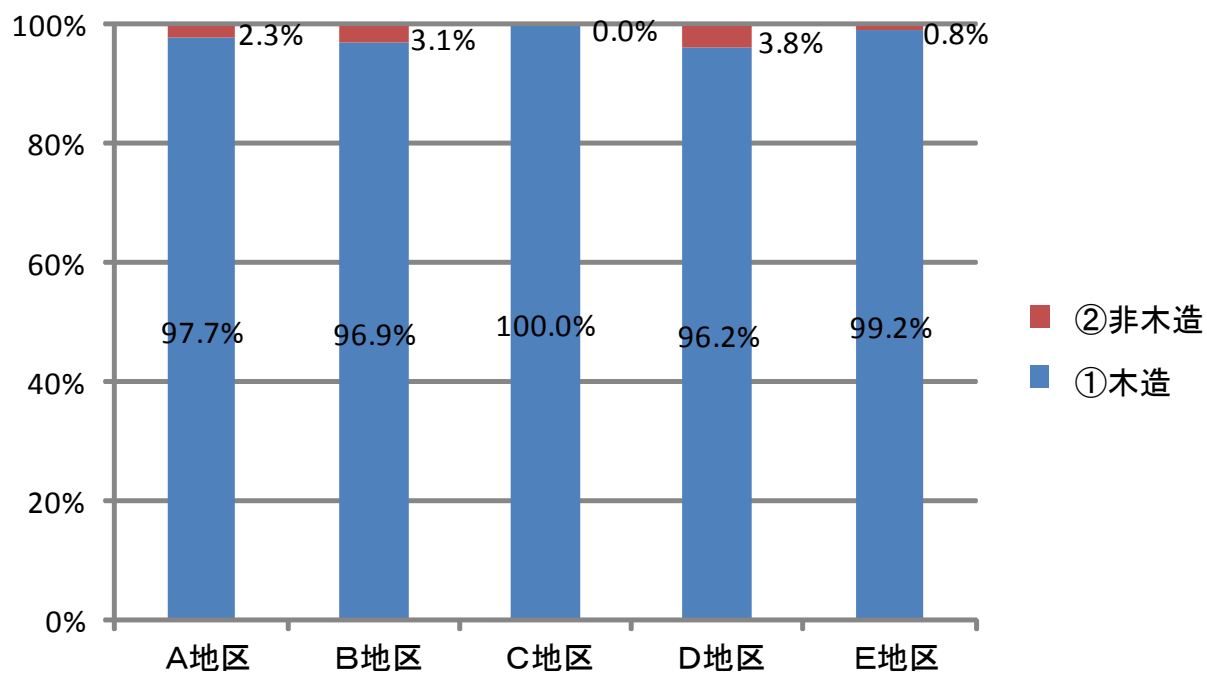
	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①一戸建て専用住宅	128	74.9%	63	98.4%	29	100.0%	25	96.2%	110	86.6%
②一戸建て併用住宅	17	9.9%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	10	7.9%
③長屋	14	8.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④アパート、マンション	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
⑤店舗	5	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	2	1.6%
⑥事務所	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑦工場、作業場	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
⑧倉庫、車庫、納屋	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%
⑨その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
⑩不明	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%



(4) 構造

・空き家の構造については、全体的に「木造」が多くを占めるが、C地区以外の地区では一部に「非木造」も見られる。

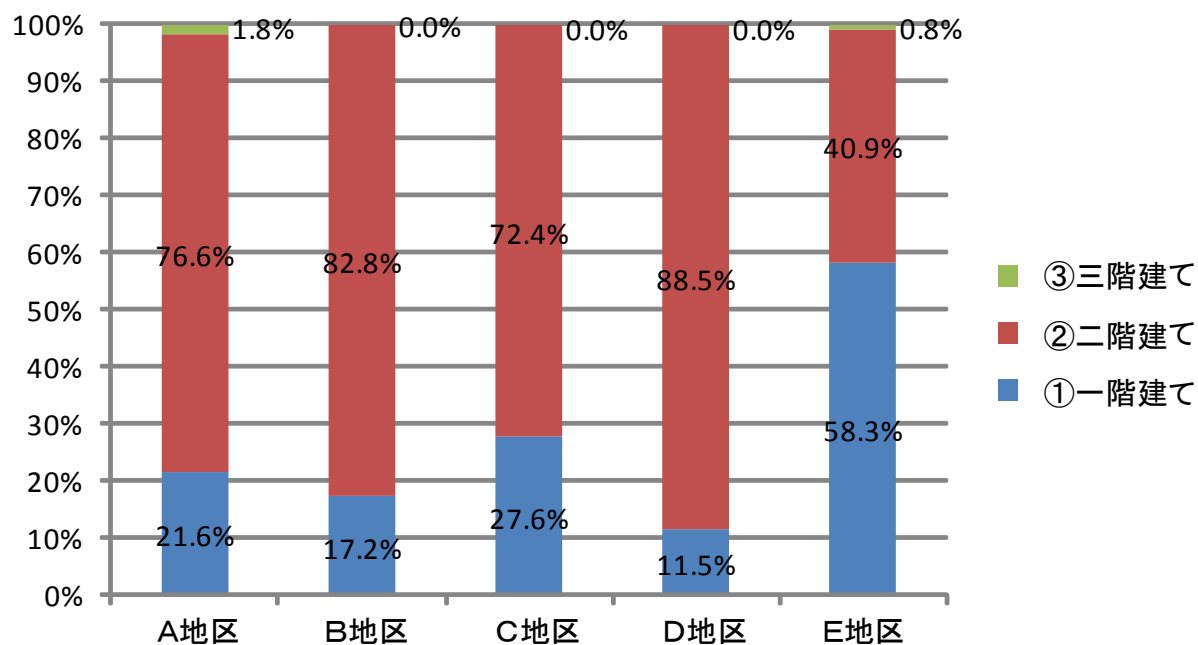
	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①木造	167	97.7%	62	96.9%	29	100.0%	25	96.2%	126	99.2%
②非木造(RC造、S造等)	4	2.3%	2	3.1%	0	0.0%	1	3.8%	1	0.8%
③不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%



(5) 地上階数

・地上階数では、E地区において「一階建て」が多い傾向が見られるのに対して、他の地区では「二階建て」が多い傾向が見られる。

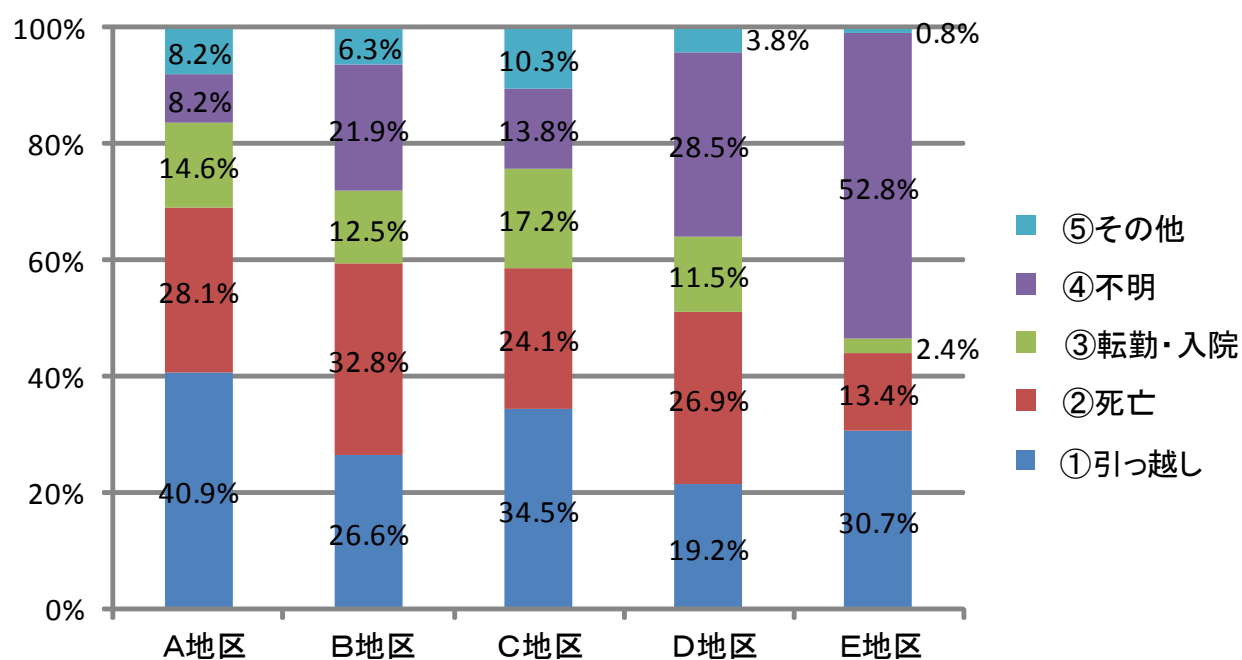
	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①一階建て	37	21.6%	11	17.2%	8	27.6%	3	11.5%	74	58.3%
②二階建て	131	76.6%	53	82.8%	21	72.4%	23	88.5%	52	40.9%
③三階建て	3	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
④四階建て以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%



(6) 空き家になった経緯

- ・ A地区及びC地区では、「引っ越し」が最も多く、次いで「死亡」が多い。
- ・ B地区では、「死亡」が最も多く、次いで「引っ越し」が多い。
- ・ D地区では、「不明」に次いで「死亡」が多い。
- ・ E地区でも、「不明」に次いで「引っ越し」が多い。

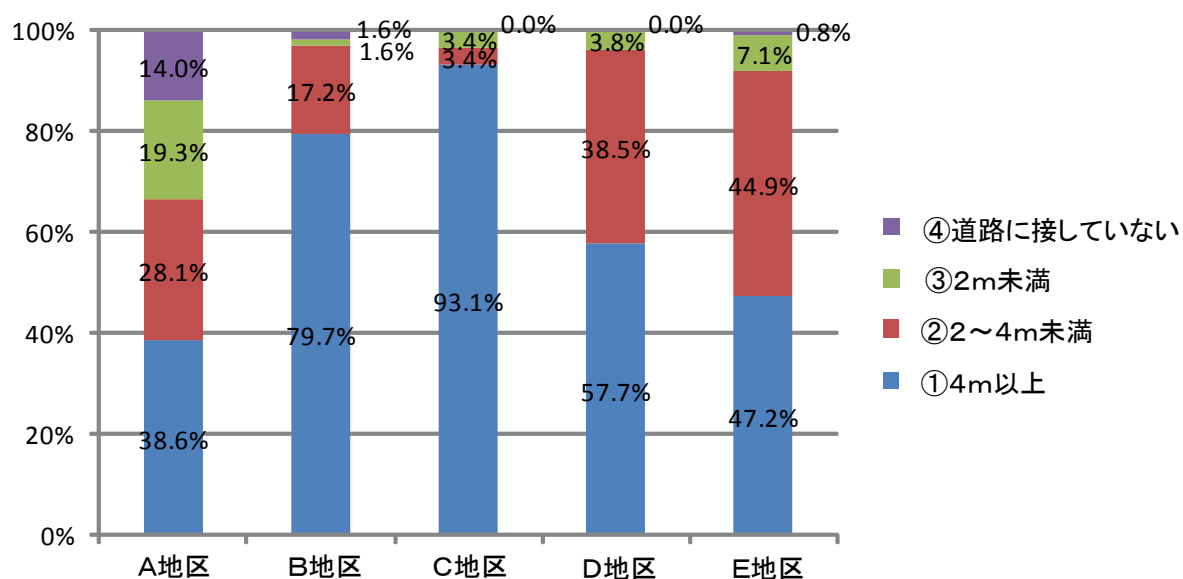
	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①居住者が引っ越したため	70	40.9%	17	26.6%	10	34.5%	5	19.2%	39	30.7%
②居住者が死亡したため	48	28.1%	21	32.8%	7	24.1%	7	26.9%	17	13.4%
③居住者が転勤・入院で不在のため	25	14.6%	8	12.5%	5	17.2%	3	11.5%	3	2.4%
④不明	14	8.2%	14	21.9%	4	13.8%	10	38.5%	67	52.8%
⑤その他	14	8.2%	4	6.3%	3	10.3%	1	3.8%	1	0.8%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%



(7) 敷地に接する道路幅員

- ・「4m以上」の道路に接する空き家は、C地区で最も多く、次いでB地区が多い。
- ・「4m未満」(②+③)の道路に接する空き家は、A地区、E地区で約5割を占める。
- ・「道路に接していない」という空き家については、A地区が目立って多い。

	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①4m以上	66	38.6%	51	79.7%	27	93.1%	15	57.7%	60	47.2%
②2～4m未満	48	28.1%	11	17.2%	1	3.4%	10	38.5%	57	44.9%
③2m未満	33	19.3%	1	1.6%	1	3.4%	1	3.8%	9	7.1%
④道路に接していない	24	14.0%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%



(8) 建物の劣化・破損状況

- ・劣化・破損の状況が「廃屋」のレベルにある空き家が他の地区に比較して顕著なのはE地区、次いでA地区である。
- ・E地区の場合には、「不良」と「廃屋」を合わせた状態の悪い空き家(②+③)が半数を超える。

	A地区		B地区		C地区		D地区		E地区	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
①良好	105	61.4%	54	84.4%	26	89.7%	21	80.8%	62	48.8%
②不良	40	23.4%	8	12.5%	3	10.3%	3	11.5%	44	34.6%
③廃屋	17	9.9%	1	1.6%	0	0.0%	2	7.7%	21	16.5%
④その他、⑤不明	9	5.3%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	171	100.0%	64	100.0%	29	100.0%	26	100.0%	127	100.0%

- ① 良好（リフォームなし又は小規模なリフォームで十分使用可能）
- ② 不良（使用するには大規模なリフォームが必要）
- ③ 廃屋（危険な状態であり、安全のために除却等が望まれるもの）
- ④ その他（ ）
- ⑤ 不明

